

外地からの引揚者を調べる 2 「引揚者名簿」



1. 作成・移管の経緯

「引揚者名簿」は、終戦後の「外地*1」からの引揚船に乗船していた人々の名簿で、厚生労働省社会援護局より平成 23 年度から移管された「戦没者等援護関係資料」*2の一つです。引揚船内で作成されたのち、上陸地の地方引揚援護局に提出され、引揚証明書¹の基礎資料になりました。その後、氏名、職業、帰郷先等が記された各名簿は、地方引揚援護局から厚生省に引き継がれ、中国残留日本人孤児の肉親調査や引揚事実の証明に活用されました*3。厚生労働省内で電

子化を行う際に、入港地ごとに整理しなおされ、画像③のようなドッチファイルに編綴されたと推測されます。しかし、詳細については不明な点も多い資料群です。

画像①：「引揚者名簿 田辺港 VO17・25 VO22・26 466」（平27厚労01222100）、内表紙部分

画像②：「引揚者名簿 浦賀港 VO87・212 リパティ・213 VO84・214 VO84・215 VO86・216 VO91・217 VO91・218 390」（平27厚労01146100）、内表紙部分

画像③：「引揚者名簿 博多港 CD142丸・407 海王丸・408 波風丸・409 雲仙丸・410 不詳・411 VH003丸・412 興昌丸・413 江寧丸・414 長江丸・415 不詳・416 62」（平27厚労00818100）、背表紙部分

2. 資料の概要

総数は521冊です（内訳は別表「引揚者名簿リスト」参照）。国立公文書館デジタルアーカイブ（以下「DA」）の目録情報では、**入港地名**、**引揚船名**の順で整理されています。なお、「(作成)年月日」は一律「昭和29年-昭和30年」と表示されています。また名簿には、GHQによって指定された上陸港*4ごとに一冊ずつ「名簿番号」が付されており、DAの目録にも表示されています。中には複数の引揚船が一つの名簿番号にまとめられているものもあります。また、欠落している名簿番号もありますが、最初から存在しないのか、何らかの原因で亡失したのかは不明です。

○「入港地」名

> 引揚船が上陸した指定港

※引揚者が上陸した指定港のうち、国立公文書館では、博多、佐世保、舞鶴、函館、浦賀、鹿児島、田辺、名古屋の計8港に入港した引揚船の名簿のみ所蔵しています。

※仙崎・大竹・宇品・横浜の4港に入港した引揚船の名簿は所蔵していません。

○「引揚船」名

帰還輸送のための引揚船には、日本側の商船および海軍艦艇、初期陸軍輸送艇 SS、SB のほかアメリカ軍の LST（戦車揚陸艦：Landing Ship, Tank）およびリバティ型（標準型貨物船）の輸送船が使用されました。なお、アメリカ側の引揚船名は以下のような表記となっている場合があります。

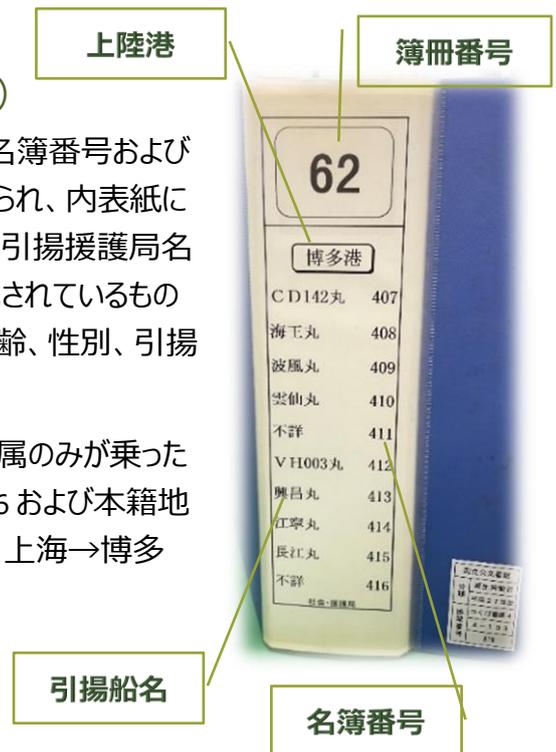
- ・リバティ型 V ・LST 型 Q 等

※別表の「引揚者名簿リスト」では、**入港地**ごとに請求番号に沿って「**引揚船名**」、「**出港地**」、「**上陸年月日**」の整理を行っています。

3.資料から分かること（引揚者名簿に記載されている項目）

各名簿の背表紙には、簿冊*5 番号、上陸港、引揚船名、名簿番号および「社会・援護局」表記があります。引揚船ごとにインデックスがつけられ、内表紙には名簿番号、上陸年月日、引揚船名、出港地、乗船人員、各引揚援護局名が記載されています。中には「年齢性別人員調査表」などが内包されているものもあります。名簿に記載されている情報には、乗船者の氏名、年齢、性別、引揚先、前住所、職業などがあります。

また、民間人が大多数である引揚者名簿の中には、軍人・軍属のみが乗った名簿も含まれており、経歴、所属、階級、留守担当者の氏名*6 および本籍地等の情報が記載されています（例：平 2 7 厚 労 00801100、上海→博多港、昭和 21 年 6 月 18 日上陸、「VO100」等）。



4.資料の絞り込みに必要な情報

「2.資料の概要」のとおり整理されていることから、以下の情報があれば、名簿の絞り込みが可能です。

- ・ **入港地名**、 **引揚船名**、 **入港（上陸）年月日**、 **出港地名**

上記の情報より、入港地ごとの別表「引揚者名簿リスト」をご確認ください。

5.関連資料

- ・引揚者在外事実調査票

昭和 31(1956)年に当時の厚生省引揚援護局未帰還調査部が、「引揚者在外事実調査規則」（厚生省令第 13 号・昭和 31 年 5 月 1 日公布）に基づき実施した、調査記録の個票（調査票）です。昭和 31 年当時の世帯単位で記入され、世帯代表者・世帯構成員の氏名・生年月日、世帯状況（家族構成・死亡有無）、「外地」における住所・職業・居住期間、引揚船名・上陸地・上陸年月日等が記載されています。これらの情報から、「引揚者名簿」を絞り込むことが可能です。

👉 国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/fonds/4676121.html>

👉 国立公文書館リサーチ・ガイド

<https://www.archives.go.jp/guide/researchguide/researchguide001.pdf>

6. 注意事項

昭和 20（1945）年の終戦以降昭和 33（1958）年までの集団引揚時に帰国した人々以外にも、事情により「外地」に残った人々が一定数存在します。そういった人々は、公式の引揚船とは別の船で帰国しているケースもあるようです。したがって、当館所蔵の入港地ごとの名簿でも、「外地」にいた全員の名簿ではないことをご承知おきください。

当該資料の利用制限区分は、「公開」「部分公開」となっているものと、「要審査」となっているものがあります。現在、「引揚者名簿」はつくば分館で保存していることから、「公開」「部分公開」の資料でも、利用にあたり移送のお時間をいただきます。なお、DA で画像が公開されているものは、インターネット上ですぐ閲覧することができます。「要審査」となっているものは、ご利用までに審査の時間を要します。詳しくは下記をご覧ください。

👉 つくば分館等の書庫において保存する特定歴史公文書等の利用

https://www.archives.go.jp/guide/storage_annex.html

👉 利用請求する

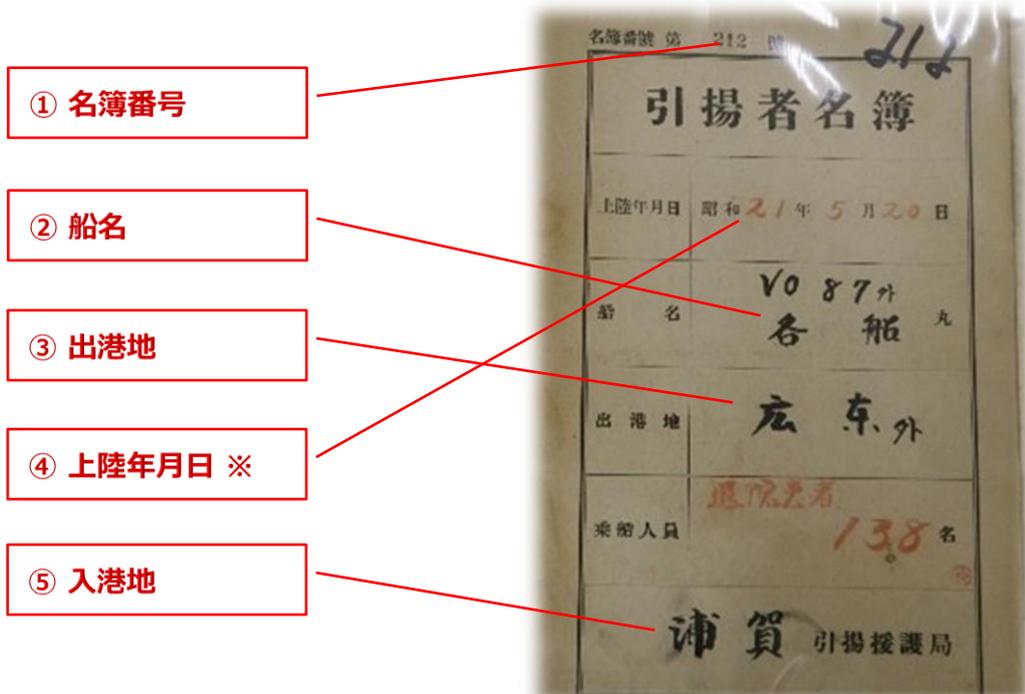
<https://www.archives.go.jp/guide/riyouseikyuu.html>

【註】

- * 1：「外地」とは、当時、北海道・本州・四国・九州など、日本固有の領土（内地）以外に、第二次世界大戦までの日本が領有していた地域、すなわち朝鮮・台湾・樺太・南洋群島などをいいます。（松村明編、『大辞林』、株式会社三省堂、1988年）
- * 2：国立公文書館デジタルアーカイブの資料群詳細「戦没者等援護関係資料」
<https://www.digital.archives.go.jp/fonds/134099.html>
- * 3：なお、『函館引揚援護局史』によれば、「外地」出港後、上陸手続書類作成業務として船内で「乗船名簿」を作成することが記されています。函館引揚援護局局史係 編『函館引揚援護局史』、函館引揚援護局、1950、p.36-37
- * 4：「引揚者受入に関する日本内地受入事務所の件」、厚生省援護局 編『引揚げと援護三十年の歩み』、厚生省、1977、p.526
- * 5：数件の件名または細目を一冊に綴じたもの
- * 6：ここでいう「留守担当者」とは、軍人軍属各個人の身上に何かあった場合に連絡が取れる者を指し、現在でいう「緊急連絡先」のようなものです。

（令和 8 年 3 月 11 日現在）

【参考】別表「引揚者名簿リスト」の見方



【画像】
「引揚者名簿 浦賀港 VO87・212 リバティ・213 VO84・214 VO84・215 VO86・216 VO91・217 VO91・218 390」（平27厚労01146100）

※ 簿冊によっては、出港日、入港日、上陸日が記されているものもあります。（例：平27厚労01083100等 函館港着のもの）

⚓ 入港地 **浦賀港 ⑤**

簿冊 No.	請求番号	名簿番号	船名	出港地	上陸年月日
337	平27厚労01093100	1	輸送船T9	トラック	昭和20年10月19日
		2	響丸	ヤップ	昭和20年10月19日
		3	宗谷丸	ヤップ	昭和20年10月24日
		4	宗谷丸	ヤップ	昭和20年10月24日
		5	宗谷丸	ヤップ	昭和20年10月24日
338	平27厚労01094100	6	宇久丸	トラック	昭和20年10月26日
		① 7	鹿島丸 ②	ヤルート ③	昭和20年 ④ 11月12日
		8	酒匂丸	バラオ ソンソル島	昭和20年11月3日
		9	楓丸	小笠原	昭和20年11月5日
		10	ジョージノリス	ダバオ	昭和20年11月10日
339	平27厚労01095100	11	ジョージノリス	ダバオ	昭和20年11月10日
		12	ジョージノリス	ダバオ	昭和20年11月10日
		13	ジョージノリス	ダバオ	昭和20年11月10日